

1. 市民部会の課題と今年度の活動目標

市民部会で抽出された課題と今年度の活動目標を以下に示す。

<課題>	<今年度の活動目標>
流域連携	地域部会(山・川・海)合同でのバスツアーを企画・開催する。
	「マイクロプラスチック」「ネオニコチノイド系農薬」の2テーマで勉強会を実施する。

(令和2年度全体会議より)

※勉強会の名称については、公開講座に変更する

2. 今年度の活動実績

(1) WG・まとめの会

活動内容	日時	場所	議題
第9回WG 16名参加 (内オンライン参加6名)	6月9日(水) 14:00-16:00	豊田市崇化館交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・バスツアーの検討 ・公開講座の具体的な計画を協議
第10回WG 12名参加 (内オンライン参加5名)	8月18日(木) 13:40-15:30	豊田市崇化館交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回公開講座の総括 ・第2回公開講座の具体的計画 ・バスツアーの実施可否
第11回WG 12名参加 (内オンライン参加1名)	10月8日(金) 14:10-15:45	豊田市崇化館交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回公開講座の結果報告 ・第2回公開講座の当日の動き ・三河湾大感謝祭の開催方針
まとめの会 16名参加(予定) (内オンライン参加7名)	12月8日(水) 14:00-16:00	豊田市崇化館交流館	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返り ・来年度の活動目標・活動計画

※参加人数は事務局含む

(2) 公開講座

活動内容	日時	場所	議題
第1回公開講座 (マイクロプラスチックの環境影響) 98名参加	7月31日(土) 15:00-17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン ・スタジオ(豊田市崇化館交流館) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックに関する講演 ・環境への影響に関するディスカッション
第2回公開講座 (ネオニコチノイド系農薬が及ぼす環境影響) 87名参加	11月27日(土) 15:00-17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン ・スタジオ(トンボ研究所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネオニコチノイド系農薬に関する講演 ・環境への影響に関するディスカッション

3. 市民部会 令和3年度の活動成果 まとめ

山川海合同のバスツアーの企画

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度の実施を延期したバスツアーについて、内容を再検討するとともに、実施に好ましい時期について協議を行った。昨年度の新型コロナウイルスの感染状況及びワクチンの接種状況をふまえ、秋季（11月頃）の開催を想定し、現地案内者と地域部会座長の日程調整を行うこととした。その結果、11月25日（木）と26日（金）に決定し、調整を進めたが、新型コロナウイルスの再拡大を考慮し、再度延期することとなった。



公開講座の実施

- ・「マイクロプラスチック」「ネオニコチノイド系農薬」の2つのテーマについて、Zoom ウェビナーによるリモート形式で開催し、後日 YouTube での配信を行った。

【第1回公開講座】

- （日程）令和3年7月31日（土）15:00～17:00
- （テーマ）マイクロプラスチックが生き物を苦しめている
- （講師）千葉 賢氏（四日市大学環境情報部 教授）
- （参加者）98名（ZOOM参加者77名、会場参加者21名）



【第2回公開講座】

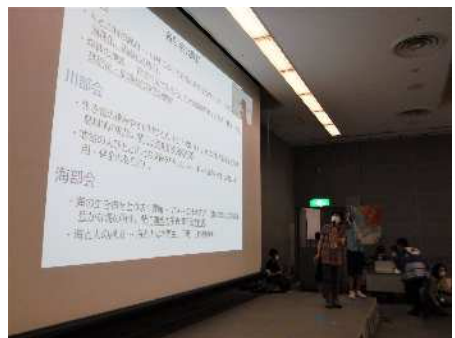
- （日程）令和3年11月27日（土）15:00～17:00
- （内容）ネオニコチノイド系農薬が及ぼす環境影響
- （参加者）87名（ZOOM参加者78名、会場参加者9名）

- ・公開講座の成果としては、矢作川流域の問題を改めて認識するとともに、全国への問題提起の場としての役割を果たした。



流域連携イベントにおける情報発信手法の検討

- ・今年度の流域連携イベントは、当初「矢作川感謝祭」「三河湾大感謝祭」の2つを予定していたが、「矢作川感謝祭」は新型コロナウイルスの感染拡大する時期と重なったため中止となった。一方で、新たな流域連携イベントとして、「いい川・いい川づくりワークショップ」に参加し、流域圏懇談会の活動を全国にPRした。
- ・昨年度の流域連携イベント開催時の状況を踏まえ、今年度の情報発信手法について、話し合いを行った。



4. 活動進捗報告

4.1 山川海合同のバスツアーの企画

(1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

【今年度の活動目標】

○地域部会（山・川・海）合同でのバスツアーを企画・開催する。

≪進捗状況≫

- ・昨年度延期になったバスツアーの内容、時期について再度意見交換を行った。その結果、今年度は秋季の11月頃に行うことになり、調整を行っていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が9月頃までみられなかったことから、今年度の実施を再度延期した。
- ・次年度において、新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、再度設定・実施する。

(2) 今年度の活動成果

- ・昨年度の計画を踏襲し、再度日程調整を行うとともに、地域部会において内容の再検討を行った。その結果、スケジュールや内容の一部見直しが行われた。

【名称】山から海まで2日がかりの「矢作川の全て」バスツアー

【計画日】11月25日(木)・11月26日(金)の2日間、各々日帰りとして計画

【想定参加人数】50人程度(※参加は矢作川流域圏懇談会のメンバーに限定)

【行程計画】次頁にスケジュール案を示す

「バスツアーのスケジュール案」

1日目 令和3年11月25日(木)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発	東口ロータリー集合		
	↓	移動(60分)	
10:00到着	水源涵養モニタリング調査サイト (豊田市大洞町)	水源涵養モニタリングサイトの成果報告(60分) 解説者: 蔵治光一郎様 (東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)	山部会
11:00出発			
	↓	移動(60分)	
12:00到着	奥矢作レクリエーションセンター (恵那市串原)	昼食・休憩(40分) ※昼食のみ体育館 奥矢作移住定住促進協議会の活動報告(40分) 解説者: 大島光利様 (奥矢作移住定住促進協議会 会長)	山部会
14:00出発		つくろっセルの活動報告(40分) 解説者: 戸田友介様(株)M-easy 代表取締役社長 → 時瀬地区の富士実験結果	
	↓	矢作ダムを見学しながら マイクロバスで移動(60分)	川部会
15:00到着	阿措ダム (豊田市富田町)	阿措水力発電所について(45分) 解説者: 北井和人様 (中部電力(株)愛知水力センター 副長)	川部会
15:45出発			
	↓	移動(15分)	
16:00到着	阿措ダム下流部 (豊田市富田町)	天然アユの生態調査の成果報告(60分) 解説者: 山本敏哉様 (豊田市矢作川研究所 主任研究員)	川部会
17:15出発			
	↓	移動(30分)	
17:45到着	豊田市駅		
18:00解散			

2日目 令和3年11月26日(金)

時刻	場所	詳細	担当部会
8:45集合	豊田市駅		
9:00出発			
	↓	移動(20分) 橋の首狭窄部の事業説明	
9:20到着	明治用水頭首工 (豊田市室町)	明治用水頭首工における治水・利水の問題について(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
9:50出発			
	↓	移動(10分)	
10:00到着	安永川トンネル (豊田市今町)	安永川トンネルに関する治水の問題や魚の移動経路(30分) 解説: 落河崇征様 (豊田市河川課 副課長)	川部会
10:30出発			
	↓	移動(10分)	
10:40到着	家下川 (豊田市榎塚東町)	家下川でのこれまでの取り組みについて(45分) 解説者: 酒井博嗣様 (豊田市文化財課)	川部会
11:25出発			
	↓	移動(65分) 昼食・休憩(60分)	
13:30到着	矢作川浄化センター (西尾市港町)	矢作川浄化センターの取り組みについて(60分) 解説: 青山 様 (愛知県西三河建設事務所 都市施設整備課)	海部会
14:30出発			
	↓	移動(30分)	
15:00到着	(仮)東幡豆海岸 (西尾市東幡豆町)	(仮)三河湾の漁獲量・次世代の担い手の現状について(30分) 解説者: 石川金男様 (東幡豆漁業協同組合 組合長)	海部会
15:30出発			
	↓	移動(30分)	
16:00到着	西尾駅		
	↓	移動(60分)	
17:00到着	豊田市駅		
17:10解散			



「バスツアーの訪問先位置図」

4.2 外部への発信を目指した公開講座の実施

(1) 今年度の活動目標に対する進捗状況

【今年度の活動目標】

○「マイクロプラスチック」「ネオニコチノイド系農薬」の2テーマで公開講座を実施する

《進捗状況》

- ・計画どおり、2つのテーマの公開講座を実施した。

(2) 今年度の活動成果

・昨年度は、勉強会のテーマについて話し合い、近年注目を集めているマイクロプラスチックと、農薬に使用されているネオニコチノイドに決定した。以前より、市民部会では外部への情報発信が課題としてあがっており、今回企画している勉強会は、一般の地域住民も対象とした懇談会主催の初めてイベントとして計画を行っている。候補として挙げた講師の先生には、勉強会への参加についての依頼を行うとともに、当日のディスカッションの詳細な検討を行った。

・以下の内容で公開講座を実施した。実施については、ZOOM 配信を基本とし、後日 YouTube 配信を行った。

○マイクロプラスチックが及ぼす環境影響

(日程) 令和3年7月31日(土) 15:00~17:00

(テーマ) マイクロプラスチックが生き物を苦しめている

(講師) 千葉 賢氏(四日市大学環境情報部 教授)

(参加者) 98名(ZOOM参加者77名、会場参加者21名)

(参加地域) 13都道府県(北海道、山形県、茨城県、山梨県、千葉県、東京都、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、兵庫県、福岡県)

○ネオニコチノイド系農薬が及ぼす環境影響

(日程) 令和3年11月27日(土) 15:00~17:00

(内容) ネオニコチノイド系農薬が及ぼす環境影響

(参加者) 87名(ZOOM参加者78名、会場参加者9名)

(参加地域) 15都道府県(山形県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県)

5. 次年度の活動目標・活動計画について

【市民部会の課題・役割】（令和元年度の全体会議資料より）

- 矢作川の望ましい姿のイメージの可視化・具体的行動

- 市民部会としての流域連携テーマの議論

- 地域部会の話題・課題を把握できるシステムの構築

- 10年間で新たに見えてきた課題や問題の明確化

- 懇談会とつながりの薄い農業や工業の団体との関係構築

矢作川流域圏懇談会通信

R3 市民部会編 vol.1



発行日：令和3年6月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第9回市民部会WGを開催しました！

第9回市民部会WGを、緊急事態宣言発出期間中における新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で、豊田市にて開催しました。令和3年度第1回目の市民部会では、今年度実施予定のバスツアー、公開講座について具体的な計画を協議しました。

日時：令和3年6月9日（水）14:00～16:00
会議場所：豊田市崇化館交流館2階 大会議室
参加者：16名（内オンライン参加6名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. 今年度の矢作川流域圏懇談会の進め方

今年度の矢作川流域圏懇談会の進め方について、緊急事態宣言発出期間（まん延防止等重点措置発出期間を含む）中、または、平常時における開催方針の説明を行いました。今回のWGは、緊急事態宣言発出中であることから、対面形式の人数を最小限とし、オンラインに重点を置いた形式で実施しました。

2. バスツアーの計画について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため順延していたバスツアーについては、令和3年11月に以下の内容で実施する方針となりました。なお、実施の最終決定については、9月に新型コロナウイルスの感染状況から判断することとします。【バスツアーの計画】

- ・実施時期：2021年11月25日（木）～26日（金）
- ・行程計画：1日目（11/25） 9:00 豊田市駅出発→18:00頃 豊田市駅解散
山部会の提案：水源涵養モニタリング調査サイト、奥矢作川レクリエーションセンター
川部会の提案：阿摺ダム、阿摺ダム下流部
- 2日目（11/26） 9:00 豊田市駅出発→17:10頃 豊田市駅解散
川部会の提案：明治用水頭首工、安永川トンネル、家下川
海部会の提案：矢作川浄化センター、東幡豆海岸

3. マイクロプラスチック公開講座の計画について

今年度は、7月にマイクロプラスチックに関する公開講座、10-11月にネオニコチノイド系農薬の公開講座を開催します。WGでは、7月31日に開催するマイクロプラスチックに関する公開講座の内容、講座の進行、チラシ配布方法、情報発信方法等について話し合いました。

【第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」についての内容】

- ・開催日時：2021年7月31日（土） 15:00～17:00
- ・開催場所：ZOOMによるオンライン開催。メイン会場は、kabo.（豊田市）。
- ・講座の内容 第一部：挨拶・問題提起 第二部：千葉先生による講義 第三部：ディスカッション 第四部：閉会挨拶
- ・主催：矢作川流域圏懇談会
- ・公開講座の周知方法：チラシを地域部会WGで配布。各地域部会メンバーの所属先等に周知。SNS等による周知。

4. その他（10年誌の活用について・根羽村「森の交流館」について）

- ・2020年12月発行の矢作川流域圏懇談会10年誌の活用について、配布状況や今後の展開について話し合いました。
- ・2020年4月に開館した根羽村「森の交流館」について、設立の背景や目的、施設の内容、今後の活用等について、説明いただきました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●バスツアー計画について

- ・バスツアーで説明していただく方々への確認はどうか。(光岡)
 - ▶ 説明していただく全ての方々の確認済み。9月に最終判断することも了承を得ている。(事務局)
- ・マイクロバスは2台用意する。1台25人乗りなので、半分となる場合は1台11~12名の乗車となる。(事務局)

●マイクロバスチック公開講座について

- 【公開講座の情報発信について】
- ・チラシ1000部の印刷が完成するのはいつごろか？(光岡)
 - ▶ 6/14の海部会WGまでにチラシを完成させ、配布できるようにする。6/22川部会WG、6/25山部会WGでもチラシを配布する予定。チラシは地域部会で希望部数を渡していく。(事務局)
- ・チラシの配布と並行して、HP上で公表したものを周知していきたい。いつから周知を開始してもよいのか？(近藤)
 - ▶ 6/14海部会WGで配布することから、その日を公開開始としたい。(事務局)
 - ▶ チラシを公開する流域圏懇談会HPのアドレスをメーリングリスト等で拡散していくことで進める。(近藤)
- ・企画は市民部会でやっているが、主催は「矢作川流域圏懇談会」がよいと思う。(近藤)
- ・女性が集まる団体などで、マイクロバスチックとネオニコチノイドの公開講座をやることを伝えている。かなり関心が高いので、崇化館交流館や岡崎市などにチラシを置くことよい。(沖)
- ・NHKでマイクロバスチックなど化学肥料の問題を取り上げていたことから反響は大きいと思う。(山本薫)
- ・SNS発信するときは、ハッシュタグを付けると効果大きいという話を聞いた。(中田)
- 【公開講座の進行について】
- ・公開講座を実施する時に、千葉先生はどこから、どういう形で講義をされるのか？(光岡)
 - ▶ 豊田市のkabo.がメイン会場となるので、千葉先生にはそこで講義していただき、ZOOMで配信する。(事務局)
- ・オンライン参加の方々の意見を聞くことは可能か？(光岡)
 - ▶ ZOOMのチャットを使って参加者の意見を集める。学生の協力も検討する。(事務局)
 - ▶ 500名参加したら相当な規模の講座となる。事務局でチャット専用の係を設置する必要がある。出た意見の中から取り上げる質問や意見をセレクトして、千葉先生に投げかける役割が必要となる。(近藤)
- ・第三部のディスカッションでは、いろいろな議論があると思うので、やりとりする人を用意しておく。たとえば、「別な視点でどうですか？」という感じでそれに答える人、コメンテーターのような人を予定しておくことよい。(近藤)
- ・第三部のディスカッションでは、ディスカッションを進行する人を配置するほうがよい。(近藤)
- ・第三部のディスカッションの進行役を配置する。また、全体の進行役も必要となる。(光岡)
 - ▶ 全体の進行役は市民部会座長がよいと思う。第二部・第三部の講演に関係するところは近藤が進行する。(近藤)
 - ▶ 全体の司会と第一部は光岡さん、第二部・第三部の進行は近藤さんがよい。(山本薫)
- 【公開講座後も含めた展開について】
- ・公開講座後も含めて、講座に参加した方々の意見とかの受け皿としてLINEなどが利用できればよい。(山本薫)
- ・流域圏懇談会の活動や取組に参加したいと思った人を募集するサイトの設定などについて、今後検討していくことが重要と思う。(近藤)
 - ▶ 事務局側としては、LINEはセキュリティ問題があるので事業として導入・運営するのは難しい。流域圏懇談会とは別に管理者を置いて展開するのであれば可能かと思う。(事務局)
 - ▶ LINEは、100名を越える場合はなじまない可能性がある。他には、InstagramやFacebookなど。(近藤)
 - ▶ 流域圏懇談会として、公開講座を通じて関心を持った方々を巻き込む方法等を検討する必要がある。(光岡)
 - ▶ 流域圏懇談会としてマイクロバスチック問題をどうしていくかは、さらに議論が必要。公開講座を通じて関心を持った方々と繋がるのが重要と思う。(山本薫)
 - ▶ 公開講座を通じて繋がった方々の受け皿は、流域圏懇談会の中では市民部会と思う。(沖)
 - ▶ 公開講座後の受け皿としてLINEも一つのツールとして、その活用を講座当日に紹介することで進める。(光岡)

●その他

- ・10年誌から矢作川流域圏での活動に驚きの反応が多い。今日は新潟県まで10年誌を送った。(沖)
- ・多摩川の関係者では、地域づくりやまちづくり等の活動において参考になると喜んでいただいた。(中田)
- ・10年誌の増刷の予定はどうか？(光岡)
 - ▶ 予算などから増刷について検討していく。(事務局)
- ・根羽村「森の交流館」は、庄内川・土岐川の流域圏活動の一つとして作った。矢作川流域圏の方々にも利用していただきたい。(溝口)

今後の予定

■市民部会WG 日時：2021年8月18日(水) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R3 市民部会編 vol.2



発行日：2021年10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第10回市民部会WGを開催しました！

第10回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。令和3年度第2回目の市民部会では、7月に実施した公開講座の総括と第2回公開講座について協議しました。また、今年度実施のバスツアーについて協議しました。

日時：2021年8月18日（水）13:40～15:30
会議場所：豊田市崇化館交流館 第2会議室
参加者：12名（内オンライン参加5名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. 公開講座の総括と今後の計画について



(1) マイクロプラスチック公開講座（第1回公開講座）開催結果

7月31日に開催した第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」の状況を報告しました。公開講座での良かった点や反省点などについて話し合い、次の公開講座に活かしていくこととしました。

【マイクロプラスチック公開講座の状況】

- ・開催日時：2021年7月31日 15:00～17:00
- ・参加人数：延べ98名（ZOOM参加者：77名、会場参加者：21名）
- ・参加地域：13都道府県

(2) ネオニコチノイド系農薬公開講座（第2回公開講座）の計画

ネオニコチノイド系農薬をテーマに、第2回公開講座の開催について協議し、以下の内容が決まりました。

【ネオニコチノイド系農薬公開講座の計画】

- ・開催日：10～11月の土日で、講師の都合を優先して決めていく。
- ・開催方式：ZOOMウェビナーによるリモート講座
- ・広報：9～10月にチラシを作成し、配布・配信する。

2. バスツアー計画について



11/25～26で実施予定のバスツアーについて、新型コロナウイルス感染状況を勘案し、実施の可否も含めた話し合いを行いました。

市民部会としては、新型コロナの現状を勘案し、当面はバスツアーの募集は行わず、9月の感染状況から実施するかどうかを判断することとします。なお、中止とした場合は、来年度に再度バスツアーを計画することとしました。

3. その他



- ・第2回公開講座の進行、役割分担を協議するための市民部会打合せを、公開講座の2～3週間前に行うこととしました。
- ・10月2～3日に開催される「いい川・いい川づくりワークショップ」について説明がありました。矢作川流域圏懇談会としての関わり方を検討していきます。
- ・矢作川感謝祭（9/5）と三河湾大感謝祭（10/24）について、内容や開催の見通し等の説明がありました。現時点では、開催する方向で進んでいますが、コロナの状況から小規模な開催になる見込みです。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座の総括と今後の計画について

(1) マイクロプラスチック公開講座(第1回公開講座)開催結果

- ・快適に講演やディスカッションを聞くことができてよかったと思う。(山本孝)
- ・YouTubeで公開でき、啓蒙になると思う。農業関係者にも見てもらえるとよい。(山本薫)
- ・YouTube動画の内容について、講演者である千葉先生の確認をとるほうがよい。現在確認中。(近藤)
- ・千葉先生の話しを身近に聞け、四日市大学の学生が研究に協力されていることなどがわかりとてもよかった。(沖)
- ・実際の現場での調査の話とマイクロプラスチックの話の両方があり、非常にわかりやすかった。(中田)
- ・山・川・海・市民の各部会を繋げられたことが成果と思う。また、懇談会から外への発信ができたことも成果と思う。100名ほど参加があったが、半分以上はオンラインによる外部の方々への参加だった。(近藤)
- ・四日市大学や岐阜大学の学生など若い人たちにスタッフとして関わってもらえたことは一つの成果と思う。(近藤)
- ・スタジオにおけるカメラワークやマイク設置などで改良の余地がある。スタジオは会議室のような部屋のほうがよい。今回は座る必要があったのと、外部音など少々やりづらさを感じた。(光岡・松沢)

(2) ネオニコチノイド系公開講座(第2回公開講座)の計画

<公開講座の進行等>

- ・第2回公開講座は、10~11月の土日で候補日を設定し、講師に都合を確認する。(光岡)
- ・第2回公開講座もZOOMでのオンラインで実施することになると思う。第1回のノウハウを活かしていく。(光岡)
- ・スタジオは、崇化館のような会議室が機能的でやりやすいと思う。(光岡・近藤・松沢)
- ・講演者がどこから参加するかは、コロナの状況などを勘案して検討する。司会者・懇談会パネラーなどはスタジオ参加のほうがよいと思う。(松沢)
- ・スタッフとして人間環境大学や流域の大学の学生に関わってもらい、外に広げていくことを進めたい。(近藤)
- ・ディスカッションでは、登壇者(パネラー)となってくれる人を用意するほうがよい。登壇者の候補については、講師と協議して決める。また、流域圏懇談会からも登壇をお願いしたい。(近藤・松沢)
 - ▶ 農業関係で山本(薫)さん、市民関係で沖さん、鳥類など生物関係で高橋さんなど。(松沢)
 - ▶ 学術的な視点でパネラーとなってくれそうな方も検討するとよい。(光岡・近藤)
- ・最初の挨拶は市民部会座長、最後の挨拶は副座長が行う。流域圏懇談会へのお誘い等は事務局が説明する。(光岡)
- ・ネオニコチノイド系農薬の影響については、あまりアカトンボに絞りにすぎないほうがよい。ニホンミツバチへの影響など全体的な動きも話題の中に織り込むのはどうか。(近藤)
 - ▶ ネオニコチノイド系農薬問題の発端はミツバチなので、ディスカッションの中に盛り込んでいくとよいかと思う。川の中の生態系などいろんな事例をディスカッションで取り上げるとよいかと思う。(松沢)
- ・公開講座の内容を流域圏懇談会の3部会でどういうふうに取り上げてもらうか、関わっていけるかが課題。(光岡)
- ・ネオニコチノイド系農薬の講座は、特に農業系の方々に参加していただきたい。(山本孝)
- ・公開講座のYouTubeでの公開について、講師に事前の了解をとるほうがよい。(光岡)

<その他>

- ・ネオニコチノイド系農薬について、東海農政局と環境省に意見を聞いたのでお知らせする。(事務局)
 - ・東海農政局では、ネオニコチノイド系農薬の人体や環境への影響は少ないと考えているが、今年度にネオニコチノイド系農薬の再評価を行う予定とのこと。
 - ・環境省では、チラシの説明で見解と異なるところもあるので、断定された事実と受け止められないような表記を検討してほしいとのこと。農薬被害が懸念される場合は、使用方法などの見直しが行われることになるとのこと。
 - ▶ チラシ案の説明文で、「〇〇といった研究がある」「研究では〇〇」等の表記を加えるほうがよい。(事務局)
 - ▶ 「〇〇という見解もある」などの表現でよいと思う。生態系への影響などは曖昧にするのではなく、見解として明示することでよいと思う。(山本薫)
 - ▶ 講師の方に自由に自分の見解を述べていただくことで問題はないと思う。(山本孝・光岡)

●バスツアー計画について

- ・コロナ禍にあって、国土交通省の事業として実施のハードルが最も高いのがバスツアーと思う。(近藤)
- ・国土交通省の事業であることを考えると、この時期に募集をかけるのも考えた方がよい。(沖)
- ・参加人数が少なくなることが問題。広く募集をかけて流域圏懇談会を知ってもらうことも大きな目的と思う。(近藤)
- ・バスツアーは成功させたいので、11月はパスして、状況をみながら再検討するほうがよい。(山本薫)
- ・まだ3ヵ月あるので何とも言えないが、来年4~6月ごろに延期するほうがよいかもしれない。(高橋)
 - ▶ バスツアーはコロナの状況をみて、あらためて設定をし直す。募集をかけることも止めておく。候補地や工程は現計画を活かしていく。(光岡)

今後の予定

■市民部会 WG 日時：令和3年10月8日(金) 14:00~16:00 豊田市崇化館交流館



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 市民部会編 vol.3



発行日：2021年10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第11回市民部会WGを開催しました！

第11回市民部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で開催しました。令和3年度第3回目の市民部会では、7月に実施した第1回公開講座の結果報告、11月に実施する第2回公開講座の開催計画、三河湾大感謝祭の開催方針等について協議しました。

日時：2021年10月8日（金）14:10～15:45
会議場所：豊田市崇化館交流館 大会議室
参加者：13名（内オンライン参加4名） ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」開催結果報告



7月31日に開催した第1回公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」の開催結果が報告されました。講座への参加者は98名、参加地域は13都道府県に及びました。公開講座の様子は、YouTubeで公開しています。

2. 公開講座「アカトンボが危ない！」開催計画について



ネオニコチノイド系農薬をテーマとした第2回公開講座の開催について協議し、以下の内容が決められました。
【ネオニコチノイド系農薬公開講座の計画】

- ・開催日時：2021年11月27日（土）15:00～17:00
- ・開催方式：ZOOMウェビナーによる完全オンラインのリモート講座。スタジオ機能として三重県四日市市のトンボ研究所に主催者PCを配置する。
- ・プログラム
15:00～15:05 第1部 挨拶：光岡氏（矢作川流域圏懇談会市民部会座長）
15:05～16:10 第2部 講演：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）
16:10～16:55 第3部 ディスカッション：苅部氏・登壇者（4～5名） 司会進行：松沢氏
進行：①各種生物群の現状とネオニコ系農薬→②農業や市民生活とネオニコ系農薬→③質問への回答→④まとめ
16:55～17:00 第4部 おわりに：山本氏（矢作川流域圏懇談会市民部会副座長）
- ・広報：10月にチラシを作成し、配布・配信する。公開講座の状況は、後日YouTubeにより動画配信する。

3. 三河湾大感謝祭の開催方針について



10月24日に開催される「第8回 三河湾大感謝祭」について、矢作川流域圏懇談会としての対応等を話し合いました。その結果、海部会の三河湾に対する考え方を整理し情報発信する、第2回公開講座をPRする、矢作川のクイズなどで矢作川を知ってもらう、ペーパークラフト等を配布するなどが決められました。

4. 第13回 いい川・いい川づくり ワークショップ in 中部の開催報告



10月2日に開催された「第13回 いい川・いい川づくりワークショップ」の開催及び参加状況が報告されました。矢作川流域圏懇談会は、「これまでの10年+これからの10年」として、これまでの活動内容、次の10年の課題等について発表し、グループワークに参加しました。



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座「プラスチックが生き物を苦しめている」開催結果報告

- 大きな成果は、岐阜大学と四日市大学の学生が手伝ってくれたこと。これからの流域圏懇談会を広く、世代を越えて認識する一つのスタートに立てた意義は大きいと思う。(近藤)

●公開講座「アカトンボが危ない！」開催計画について

- ディスカッションでは、話しが煩雑にならないようにテーマを決めて進行させる。トンボ関係で2名程度、鳥関係で高橋さん、ミツバチ関係で矢作川研究所、農業関係で山本さん、市民生活関係で沖さんにパネリストとして登壇していただき、話題提供をお願いしたいと考えている。(松沢)
- ▶市民生活関係の話題提供者としては、「農業を考える会」の伊藤玲子さんをお願いしており、了解も取れている。(沖)
- ▶養蜂については、農家が実践していることとお話する。稲作については、イネにつくカメムシの被害が大きいので、米を農協に出す以上、農業使用は必要となる。そのあたりをお話する。(山本)
- ▶ミツバチ関係については、矢作川研究所の研究内容を確認してから検討する予定。(松沢)
- ▶パネリストという位置づけではなくても、ディスカッションに入ってもらおうほうがよい人もいる。その時にパネリストに上げていくという方法も取り入れるとよい。(近藤)
- ディスカッションは45分なので、話題提供は長くて1人3~5分程度で、現状をお話いただく。(松沢)
- 完全オンラインということは、全員PCでの参加ということか？(光岡)
- ▶公開講座の方式について。主催者PCを配置するスタジオを設置し、そこに司会者PCも配置する予定。(松沢)
- ▶登壇者でPC等に不安がある場合は、スタジオで参加すれば問題はない。(近藤)
- ▶当日はスタジオでの参加としたい。(山本・沖・高橋)
- 参加者からの質問は主催者PCでチェックし、司会者が整理して、講師やパネリストに答えていただく。(光岡)
- YouTubeによる配信について。講演の中で未発表データ等がかなり出てくると思われることから、データの扱いなど配信方法は検討するほうがよい。(松沢)
- ▶YouTubeの生配信はやらなくてもよいと思う。YouTube配信は、編集してから配信する形式がよい。(近藤)
- ▶YouTube配信については、講師の了承を得た上で配信する。(光岡)
- チラシの配布について。第1回公開講座では、岡崎市図書館、全国川ごみネットワーク、三河湾淡水生物ネットワークなどに配布していただいた。必要枚数を3部会座長に確認し、10~11月の各部会で配布する。(星)
- ▶愛知・川の会など、基本的にメールで送る予定。会にはお年寄りもおられるので、紙での配布も行う。(近藤)
- ▶市立図書館、市民交流センターなどに置いていただき、市民に広くお知らせする。(沖)
- ▶西三河野鳥の会は、画像を会長か私の所に送ってもらえば、会員に回ると思う。(高橋)

●三河湾大感謝祭の開催方針について

- 第2回公開講座のPRはやらなければいけない。また、印刷が間に合えば、10年誌を置きたい。(近藤)
- チラシを見ると「三河湾はいい海」という感じだが、海部会から言えば、三河湾は水産の状況が悪く、危機的な状況にある。三河湾の現状を問題提起として出してほしい。(井上)
- ▶豊かな海という幻想に対して現実を見せることは重要。海部会が中心となって情報発信するべきと思う。(近藤)
- ▶40年以上前の三河湾は、「365日赤潮が発生していて、魚が育たない」というイメージ。チラシを見ると、「三河湾はきれいになった」という感じで、問題点が複雑になってきていると感じる。(沖)
- コロナの関係で、イベント開催の制限はどうか？(光岡)
- ▶愛知県では、イベントの規模はあまり大きくしないという方針はあるが、特に制限はない。(星)
- 昨年度は、矢作川に関するクイズを作り、クイズに答えたらプレゼントをお渡しした。好評だった。(中田)
- ▶国土交通省のほうで、魚と災害対策車のペーパークラフトを用意する。(佐藤)

●第13回“いい川・いい川づくり”ワークショップ in 中部の開催報告

- 見逃した方のために、配信用のYouTube動画を作成中。2日間のドラマをぜひ見ていただきたい。イベントの企画や実行における楽しさや苦しさ、流域のつながりにもつながっている。(近藤)
- これからの課題などでいろいろ議論があった。矢作川流域圏懇談会にもつながる課題や解決案など模索できたのではないかと考えている。(星)
- 今回はハイブリットという形で、オンラインで会場とつないだ。オンラインだからできたこともあり、良さが活かされたのではないかと感じる。会場は若い世代の参加が多かった。(星)

今後の予定

■市民部会まとめの会 日時：2021年12月8日(水) 14:00~ 豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

R3 第1回公開講座



発行日：2021年10月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第1回公開講座を開催しました！

山・川・海を通した流域の課題として、マイクロプラスチック問題をテーマに、第1回公開講座を実施しました。講座は、豊田市にスタジオ会場を設置し、ZOOMウェビナーによるリモート方式で開催しました。

- ◆ 日時：2021年7月31日 15:00～17:00
- ◆ テーマ：プラスチックが生き物を苦しめている
- ◆ 講師：千葉 賢氏（四日市大学環境情報学部 教授）
- ◆ 参加者：98名（ZOOM参加者77名・会場参加者21名）
- ◆ 参加地域：13都道府県（北海道、山形県、茨城県、山梨県、千葉県、東京都、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、大阪府、兵庫県、福岡県）



◆公開講座の準備と進行

1. 事前打合せとスタジオ会場の設置



公開講座当日12時に、豊田市崇化館交流館にて、講演者・登壇予定者・事務局・事務局補佐が集まり、公開講座のタイムスケジュールや役割分担、ZOOM作動状況等について、最終確認を行いました。最終確認後は、古民家カフェ“kabo.”に移動し、スタジオ会場の設営を行いました。

2. 公開講座の開催



四日市大学環境情報学部教授 千葉氏を講師として迎え、以下の4部構成で公開講座を開催しました。

- 第1部 開会挨拶
市民部会座長の光岡氏より、開会の挨拶と公開講座の趣旨を説明していただきました。
- 第2部 講演
四日市大学教授の千葉氏より、「マイクロプラスチックが生き物を苦しめている」について、以下のテーマで講義していただきました。
【公開講座のテーマ】
海洋プラスチック問題に関するこれまでの経緯、国際的な動きなど
1. マイクロプラスチックとは？
2. マイクロプラスチックの生態系への影響
3. プラスチックごみとマイクロプラスチックによる伊勢湾の汚染
4. 今後の対策 ～ 私たちに出来ることは何か？～
- 第3部 ディスカッション
愛知・川の会の近藤氏の司会で、ディスカッションを行いました。ディスカッションには、矢作川流域圏懇談会の青木氏と野田氏、全国川ごみネットワークの金子氏と伊藤氏が登壇し、話題提供を行いました。また、参加者からは、日向氏と佐山氏の2名が登壇者となって話題提供を行いました。
- 第4部 閉会挨拶
豊橋河川事務所より、閉会の挨拶と矢作川流域圏懇談会のこれからの流域連携の方向等について、説明しました。

公開講座の様子は、YouTubeで公開しています。【URL】<https://youtu.be/TQCodHOXJs8>



事前打合せ



スタジオ会場の設置



公開講座の実施

◆ディスカッションでの主な質問と回答 (・質問 ▶回答)

- ・ 徐放性肥料カプセルの流出が多いが、内陸の河川での状況を教えてほしい。(日向)
 - ▶ 三重県の河川では、代掻きの後に徐放性肥料カプセルがたくさん見ついている。その時期が過ぎると全く出ておらず、流出量は時期的に違いがある。(千葉)
- ・ 日向さんは、山梨県内の農協にアンケートを行いたいとのことだが、なにかアドバイスはあるか。(近藤)
 - ▶ 農協でどの肥料を斡旋しているかなど。肥料の一部が徐放性肥料になっている。山梨県全体の水田での使用量がわかってくると、流出量が推定できるようになる。(千葉)
- ・ 帝京科学大学での調査では、川を流下する徐放性肥料のカプセルが引っ掛かってこないとのこと。(日向)
 - ▶ 徐放性肥料のカプセルは水に浮くので、川の表面で採取すれば採れるはず。徐放性肥料のカプセルは5月など限られた時期に出るので、調査時期や、採取ネットを張った期間などが関係しているかと思う。(千葉)
- ・ 農家の方々が徐放性肥料カプセルにより発生する問題を知らないで使っている可能性が高いと思う。農協単位で使うのを止めたという例もあると聞いている。(近藤)
 - ▶ 徐放性肥料は、日本の農業、特に高齢化で人手が不足している農業にとって、非常に重要な肥料になっている。使わないという選択ではなく、使う場合には、意識して、注意して使うという方向にもって行ってほしい。(千葉)
- ・ 海岸でごみを集めたりしているが、海岸に漂着しているプラスチックごみは、海全体からみてどれくらいの割合なのかかわからない。海岸でプラスチックごみを集めたり回収したりする意味はどうか。(青木)
 - ▶ 世界中で出た海洋プラスチックの2/3は海岸に漂着しているという研究がある。伊勢湾では、50%が海岸に漂着する。よって、海岸での清掃活動は意味があると思う。また市民の活動には啓発的な意味合いも大きい。(千葉)
 - ▶ 海岸ではごみが流れ着いてくるところが特定される。ごみが多いところを回収するのは有効で効率が良い。(金子)
 - ▶ 分解して小片化するのが主に海岸であれば、そうなる前に回収しておくことが有効かもしれない。(青木)
 - ▶ それぞれの場所に応じた条件で、回収や発生抑制対策を進める考え方で整理するとよいかと思う。(金子)
- ・ 日本はプラスチックごみに関して、危機感がない国、プラスチックが大好きな国と言われている。国の対応も緩いと言われている。マイクロプラスチック問題についても、意識している人はほとんどいないのではないかと思う。(近藤)
 - ▶ 海の場合、きれいな海水浴場で遊ぶことになるので、ごみの多い海岸がイメージされてこなかった。マイクロプラスチックが問題になってからは、報道で取り上げられることが多く、かなり認識されてきている。(金子)
- ・ 先日、豊川の河口でごみ拾いに参加したが、小さなマイクロプラスチックが混じっている。ハマグリのご糞を顕微鏡で見ると、ご糞の中に細片化されたマイクロプラスチックが入っている。(野田)
- ・ 漂着ごみだけではなく、瀬戸内海で海底ごみの引き上げをやっているというようなこともあり、海底にも溜まっているのではないかと思う。(近藤)
 - ▶ 伊勢湾では詳細な調査は行われていないが、漁業者が底引き網を使うと、かなり上がってくるような状況。(千葉)
- ・ 流域圏懇談会より、「農業系プラスチックの防止のために、一体何をすべきだろうか」という意見が出ている。農業系に対して、私たちは何をすればよいのかについて議論したい。(近藤)
 - ▶ 今年度中に農協へのアンケートを行おうと思っている。農協を含め、農家の方々は、自分たちが使っているものがどんな影響を起こしているのかを知らないことが多い。まず、そこから知ってもらわないといけないと思う。(日向)
 - ▶ 消費者の立場から積み上げて、上にあげていくこと。農業系のごみを減らすというのは、川のごみの現状をホームセンターや農協の担当者に伝えていくことが大事と思う。それと、法制度を作ること。法制度ができる時には多くの人の賛同がないとできないので、制度の必要性を理解してくれる人たちが多くならないといけない。(金子)
 - ▶ 東京の荒川河口のごみ拾いをやっている。マイクロプラスチックは、海から戻ってくるのではなく、川ですでにマイクロプラスチックになっているものも多い。(伊藤)
 - ▶ 農家や農協自身が、「安全な農産物を作りたい」というところで行くのがよいかと感じている。(沖)
- ・ 「徐放性肥料の次に気を付けるべきプラスチック製品には何があるのか」という質問が来ている。(近藤)
 - ▶ 量的に言えば、硬質プラスチックがある。生活から出たプラスチックが砕けたようなもの。そういうものを流出させないような生活スタイルが大切。不法投棄やポイ捨ては減ってきているが、下げ止まりの状況と思う。(千葉)
- ・ 「石油製品であるプラスチックに代わって、新たな素材の開発は進んでいるのか」という質問が来ている。(近藤)
 - ▶ 海の中で分解するようなプラスチックの開発について、国を挙げて進めているが、良い素材は見つからない。プラスチックにこだわらなければ、紙製品や竹製品とかに置き換える動きも出てきている。(千葉)
- ・ 河川管理者をやってきて、ごみ問題の質が変わってきたと感じている。河川管理者としてのごみ問題は、粗大ごみと美化の問題だったが、水質問題に変わってきたと思う。(近藤)
- ・ 生物の筋肉の中にプラスチックが入ってしまうというメカニズムがよくわからない。(佐山)
 - ▶ 論文の中にも明確には記されていない。筋肉の中から見つかるというメカニズムは調べていかなければいけないと記されている。かなりの数の魚介から見つかっているので、普遍的なメカニズムがあるのではと思う。(千葉)
 - ▶ マイクロプラスチックが細胞膜を通過すると、プラスチックそのものが含有している有害な化学物質なども取り込まれてしまうという懸念にもなると思う。(金子)
- ・ 「水辺のごみ見つけ!」という活動を全国川ごみネットワークで実施している。109の水系で「川ごみマップ」が作成されている。(伊藤)
- ・ 現状を知ること。どうすればよいかは次の段階として考えなければならない。私たちは、それぞれの立場で行動していかなければならない。その入り口の話しを本日議論した。(近藤)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：2021年12月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第2回公開講座を開催しました！

山・川・海を通じた流域の課題として、ネオニコチノイド系農薬の問題をテーマに、第2回公開講座を実施しました。講座は、三重県四日市市にスタジオ会場を設置し、ZOOMウェビナーによるリモート方式で開催しました。

- ◆ 日時：2021年11月27日 15:00～17:00
- ◆ テーマ：アカトンボが危ない！ いま水の中で何が起きているのか？
- ◆ 講師：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員）
- ◆ 参加者：87名（ZOOM参加者78名・会場参加者9名）
- ◆ 参加地域：15都府県（山形県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県）



◆公開講座の準備と進行

1. 事前打合せとスタジオ会場の設置



公開講座当日の13時より、講師・司会・ディスカッション登壇者・事務局・事務局補佐が参加し、ZOOMによる事前打ち合わせを行いました。事前打ち合わせでは、通信状態のチェック、タイムスケジュールの確認等を行いました。14時から、スタジオでのPC配置、パブリック会場の設営を行いました。

2. 公開講座の実施



神奈川県立生命の星・地球博物館 苅部治紀氏を講師とし、以下の4部構成で公開講座を実施しました。

- 15:00～15:05 第1部 開会挨拶 光岡金光氏（矢作川流域圏懇談会 市民部会座長）
- 15:05～16:10 第2部 講演 苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

【テーマ】アカトンボが危ない！ いま水の中で何が起きているのか？

【講演内容】

水域における水生昆虫の減少の現状から、その原因の一つとしてネオニコチノイド系農薬をとりあげ、国内の水域におけるネオニコチノイド系農薬の検出状況、検出された要因等について検証しました。そこから考えられる農薬使用の影響や問題点、今後の課題について考察しました。

- 16:10～16:55 第3部 ディスカッション

ネオニコチノイド系農薬の影響が示唆される生物群の現状、農薬使用の現状、私たちが取り組むべきこと等について、5名の登壇者による話題提供と講師・登壇者によるディスカッション、参加者からの質問への回答を行いました。

【登壇者】

生物関係：清水典之氏（日本トンボ学会）・吉田雅澄氏（日本トンボ学会）・高橋伸夫氏（西三河野鳥の会）

農業・市民生活関係：山本薫久氏（菟野NPO 結の家）・沖章枝氏（水と緑を守る会・岡崎）

講師：苅部治紀氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

司会進行：松沢孝晋氏（矢作川流域圏懇談会）

- 16:55～17:00 第4部 おわりに

山本薫久氏（矢作川流域圏懇談会 市民部会副座長）に農薬問題等の今後の方向について説明いただいたのち、事務局より、矢作川流域圏懇談会における流域連携の方向等について、説明しました。

➤ 公開講座の様子は、YouTubeで公開しています。【URL】（調整中）



事前打合せ



PCの設定



公開講座の実施



◆ディスカッションでの主な質問と回答 (・質問 ▶回答)

◆ネオニコチノイド系農薬と生態系について

- ・最近 20 年くらいで、トンボに限らず昆虫が減ったと感じる。減った原因としては、農薬の他、土地開発の影響が大きいと考える。大都市周辺では、水辺環境が明らかに少なくなっている。(清水)
- ・ここ 30 年くらい、矢作川の下流から上流までヤゴを中心に調査してきた。矢作川上流ではヤゴはそれなりにいるが、下流に行くと減少する。現在、西尾市や碧南市など矢作川下流において、ヤゴはほとんど採れない。水生昆虫もほとんどいなくなっている。90 年代は矢作川下流にウナギの稚魚がいたが、現在は全くいない。(吉田)
 - ▶ 河川の調査結果では、ほとんどの河川で農薬が検出される。特に、降雨後に高濃度になる。北海道から沖縄まで全国の水域を調査したが、農薬はほぼ全ての水域で検出される。(苅部)
 - ▶ 河川の生物がいなくなっており、生態系そのものを破壊する勢いで進んでいると思う。探さないとヤゴが見つからないというのは、昔だったら考えられなかった。各地で同じような状況がみられる。いろんな原因で減っていると思われ、農薬がそのとどめのようになっていると感じる。(苅部)
 - ▶ ネオニコチノイド系の薬剤は、植物の体内に入る。これにより、ミツバチ、チョウなどの訪花性昆虫、それを餌としている鳥など、広範な生物に影響している可能性がある。(苅部)
 - ▶ 問題が、池や水田などのピンポイントから、流域に広がりつつあると感じる。(松沢)
- ・小魚を餌にするコアジサシ、干潟の底生生物を餌にするハマシギの数が、1993~1994 年を堺に激減している。このころ矢作川河口周辺では、埋立て環境が変化しているため、農薬が減少の原因かどうかはわからない。(高橋)
 - ▶ ネオニコ系農薬は節足動物全般に効くので、鳥の餌となる多くの生物に影響を与えていると考えられる。それが生態系上位種の個体数減少の要因になっている可能性がある。減少は 2000 年代に入っても終わっていない。(苅部)
 - ▶ 生物減少の年代が一致しているのが気になる。穴道湖でニホンウナギやワカサギが激減しているという話しもある。我々はこういう現象を頭に入れ、知って、その要因のひとつに農薬があることを考えなければいけない。(松沢)

◆ネオニコチノイド系農薬と農業、市民生活について

- ・中山間地の農家の人たちは、カメムシ防除でネオニコ系農薬を撒くのが一般的。農協が発行している「農事暦」に散布した農薬を記入し、提出する。これを提出しないと、農協は米を引き取ってくれない。カメムシによる斑点米が出ないように農薬を散布する。斑点米が出ると等級が落ちる。斑点米は無害で、味も変わらない。色彩選別機ではじくこともできる。農薬を使わなくても、十分おいしく食べられると思う。(山本)
- ・農家の人たちがミツバチを飼う人が増えている。ネオニコ系農薬が昆虫に影響があることを知れば、農薬の使い方も変わってくるのではないかと期待している。(山本)
- ・共同防除をしないと約束した米の共同購入の世話係を 30 年近くやってきた。共同購入をはじめてしばらくして、カメムシが大発生した。コシヒカリより前に出穂する米を作り、そこにカメムシを集中させることにより防除した。(沖)
- ・地域ぐるみの共同購入ということで、米作りの環境も保てるようにしている。今は、減農薬ではなく無農薬米として販売している。「赤とんぼの羽音が聞こえる静かな里で手塩にかけて育まれたお米」として届けている。(沖)

◆Q&A への参加者書き込みへの回答

- ・「桶ヶ谷沼のベッコウトンボで新潟県のトキのようなインパクトを、磐田市や茶農家と持てるかどうか。プライドにできる価値を共有したい」
 - ▶ 地域での消費者の運動と農家の取り組みが一体となると、大きなインパクトとなるのではないと思う。(山本)
 - ▶ 兵庫の「コウノトリ米」とか、豊田市の「赤とんぼ米」とかの例がある。(松沢)
 - ▶ 桶ヶ谷沼・鶴ヶ池の周辺には広範囲に茶畑があり、ネオニコチノイド系農薬が検出される。茶畑は農薬をかなり使う。生業に直結することから、地域としての価値観や農薬問題への理解を進めていく必要があると思う。磐田市は「トンボの里」として売り出しているため、行政を含めた中で検討する必要があると思う。(苅部)
 - ▶ 西尾市で茶畑の下手にある池を調べている。90 年代はヤゴがいたが、現在は全くいなくなっている。(吉田)
- ・「ネオニコチノイド系農薬は、家庭内の建材やシロアリ駆除などにも使用されていることを忘れてはならない」
 - ▶ 普段使っている薬剤がネオニコチノイド系に変わってきている。これは農家も家庭も同じ。人体被害の研究も進められており、危険性等を認識したうえで使っていく必要があると思う。使用量を少なくする、使わないでやるなど日々の生活の中でできることを考えていく必要があると思う。(苅部)
- ・「ネオニコチノイド系農薬が、実際、どの程度影響しているのかを確定できるデータが不足していると感じた。具体的な対策を講じるためには、ネオニコの影響を定量化する必要があると感じるが、どのような研究が必要か」
 - ▶ アカトンボへの影響については定量化の研究が進んでいる。絶滅危惧種への毒性評価試験などは進めていく必要がある。高濃度汚染の検証が進められているので、種の毒性評価は示していく必要がある。実際の被害実態との相関を明らかにしていくのが第一歩になると思う。(苅部)
 - ▶ 最も心配なのが人への影響。農薬を使用している農家、消費者の側にとっても、虫が死ぬという問題だけではないというところが問題解決の中では重要と思う。(苅部)
 - ▶ 農薬の影響は、生態系だけではなく、食の安全を脅かす可能性があることを考えなければならない。これは、我々の世代だけではなく、次の世代にもつながっていく。対策できることから考えていくことが重要と思う。(松沢)
 - ▶ 2030 年に向けて全世界的にいろんな動きが行われている。化学物質の問題も含め、これらの問題は我々の孫やひ孫世代が幸せに生きられるかの問題。また、今程度の生物が保全されるギリギリの 10 年であると思う。(山本)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R3 流域連携 vol.1



発行日：令和3年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第13回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップに参加しました！

本ワークショップでは、2日間にわたる地域・世代・立場を越えた出会い・交流をとおして、将来の日本の川や、川と地域の関係のあり方等について、議論を交しました。各団体間で課題点や解決案、「いい川」とは何かについて、意見交換を行いました。矢作川流域圏懇談会は、当日の発表およびグループワークの参加、運営の支援等を行いました。

日程：令和3年10月2日（土）～10月3日（日）

場所：長良川国際会議場

参加人数：5名（事務局を含む）



◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容



■目的（テーマ、HPより抜粋）

全国各地から“いい川”・“いい川づくり”に向けた発想や視点、関わり、参加や協働のプロセス、“いい川”の回復、実現のために工夫された計画や技術など、意見交換を行い、それぞれの思いや知恵を拾いあげ、これからへ向けて共有することを目的に開催されました。

■主なイベント内容

- ◇全体発表会（会場およびオンラインでの全応募団体の発表会）
- ◇グループワーク（5、6グループに分かれ、全員参加での議論）
- ◇パネルトーク（木曾三川をはじめとする中部の川の豊かさを深堀り） など



全体発表会で、矢作川流域圏懇談会の概要と今後の課題を発表しました

2. 各団体の発表概要（抜粋）



全体発表・グループワークには37団体が参加しました！

■矢作川流域圏懇談会

～矢作川流域圏懇談会 これまでの10年+これからの10年～

矢作川流域圏懇談会の概要説明とこれまでの活動内容、各地域部会の課題や次の10年間の課題などについて、発表しました。

■本別アイヌ協会・十勝川中流部市民協働会議JV

～湿地の維持管理によるアイヌ伝統文化の再生～

湿地の維持管理によるガマの持続的供給やアイヌ民族の文化など、自然や民族との共生について、発表しました。

■ミズベリング岩倉・五条川

～岩倉市 五条川における地域活性化への取り組みについて～

岩倉市民討議会のグループワークから発足した「ミズベリング岩倉・五条川」のかわまちづくりに向けた様々に取り組みについて、紹介しました。

■善福寺川を里川にカエル会

～市民力によって都市の川を里川にカエル～

東京都の杉並区を流れる善福寺川を、市民力によって里川に再生する取り組みを発表しました。

■玉ーアクアリウム

～明石川と共に生きる ～神戸市絶滅危惧Bランク・ヒラテテナガエビ～

明石川の環境保全のために、外来種の駆除と在来種や絶滅危惧種の保護を続けた成果について、情報を発信しました。

■22世紀奈佐の浜プロジェクト

～豊かな海を取り戻すため、100年後の奈佐の浜の漂着ゴミをゼロに！～

3県（愛知県、三重県、岐阜県）の学生が協力して、主な活動とは独立して広報活動などを行っている点や、海ごみの調査や海流から科学的な検証を行っている点等をアピールしました。



グループワークでは、全国の団体とともに議論を交わしました



若い世代に、矢作川流域圏懇談会の概要について説明しました



新型コロナウイルス対策を徹底して開催されました

3. “いい川”・“いい川づくり” ワークショップでの主な意見など



■グループワークでの主な意見（抜粋）

【グループA】～広がり求めて～

◇悩み3か条：①次世代への継承 ②時代で変わる課題 ③連携手法

◇いい川3か条：①「次」の話をする ②若い人の発想を活用する。 ③原体験（ごみひろい、川あそび）

【グループB】～水辺管理と次世代継承の課題～

◇悩み3か条：①ごみ問題 ②高齢化・世代交代 ③地元連携

◇いい川3か条：①水がきれい、魚が多いづくり ②子供が遊び、人が親しめる川づくり
③様々な主体を連携し、“いい川づくり”を進める。

【グループC】～子どもたちに伝えるべきこと～

◇悩み4か条：①ごみが減らない ②活動が広がらない

③オンラインの可能性と限界 ④看板ってホントにいいの？

◇いい川4か条：①関心を持たれている川 ②おいしい・楽しい・儲かる川 ③つながる・かかわる川 ④学べる川

【グループD】～文化・水辺の活用～

◇悩み5か条：①活動を広げたい ②流域で共有する仕組みがある ③人の輪や専門家の参画

④管理者や他団体との連携 ⑤水辺の構造

◇いい川3か条：①環境学習で誘う、川の安全学習で誘う

②アダプトプログラム、河川協力団体を活用する ③流域で楽しむ

【グループE】～水辺の再生と子どもたち～

◇悩み2か条：①ゴミ ②安全

◇いい川2か条：①子どもが川にいる ②川を良くなるほうに変える

■ “いい川”・“いい川づくり” ワークショップのまとめ

か 川のにおいを感じられる2日間

わ 私が、僕が〇〇〇。が大事！～自己決定できる状況を育む～

と 友とのマッチングで全国の学びあい～オンラインの良さを活かそう～

と ともに取り組む、「川びらき」治水に参加しよう！

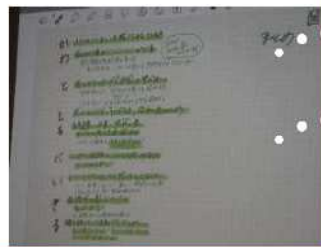
も 問題、水害、リスク（恐れ）と恵、すべてを考える流域治水～流域全体でバランスをとる～

に ニッポン川国論は、小さな共感と多様性の積み重ね

い いい川づくりは人づくり、感性として伝えたい～デザインセンス・文化・市場の掘り起こし～

き 危機感を楽しむセンスが光っていた！～外来種やごみを徹底的に楽しむ～

る 縷々続いていく活動づくりのために。～素（日常）とまつり。信仰・恵・感謝を人につなぐ～



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。





発行日：令和3年12月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回三河湾大感謝祭に参加しました！

三河湾大感謝祭は、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、三河湾の環境再生に向けた機運を高めることを目的として、愛知県が主催したイベントです。矢作川流域圏懇談会は、三河湾につながる山の情報を知っていただくために、根羽村森林組合による「動く木のおもちゃの展示ブース」を出展しました。また、矢作川の情報発信を目的としたクイズの出題と、魚のペーパークラフトを参加者に配布しました。



三河湾の環境再生、SDGsの達成に向けた
セレモニー「ガンパローコール」の様子

日程：令和3年10月24日（日） 10：00～16：00

場所：豊田自動織機海陽ヨットハーバー

参加人数：12名（事務局を含む）

◆イベントの目的と内容および矢作川流域圏懇談会の参加について

1. 目的とイベントの内容



■目的（チラシ、HPより抜粋）

三河湾環境再生プロジェクトの一環として、「知ろう！守ろう！命が生まれ、命が育つ きれいな海“三河湾”」をテーマに第8回三河湾大感謝祭が開催されました。

■主なイベント内容

- ◇三河湾環境トークショー（ゲスト：竹島水族館 小林館長&瀧川鯉斗師匠）
- ◇名古屋CLEAR'S（アイドル）ミニライブ
- ◇クイズラリー（豊かな海“三河湾”環境再生推進協議会提供）
- ◇セーリングワールドカップレガシーイベント（同時開催）



矢作川流域圏懇談会のブースを
愛知県知事に紹介しました

2. 矢作川流域圏懇談会・関係団体等 出展状況



■矢作川流域圏懇談会

～活動紹介と矢作川に関するクイズの出題～

根羽村森林組合による木製の弓矢のおもちゃを出展し、矢作川に関するクイズを出題しました。約60名のクイズ参加者には「魚のペーパークラフト」をプレゼントしました。

イベントには19団体（国土交通省、愛知県等含む）が参加しました

■環境ボランティアサークル亀の子隊

～海ごみゼロの活動と流木ペン立て作り～

渥美半島にある西の浜海岸の現状を伝えるパネルの展示を行いました。また、流木を利用したペン立て作り体験を実施しました。

■愛知県水産試験場

～海の生きものの展示～

水槽に海の生きものを展示するとともに、パネルを用いた海の情報発信を行いました。

■愛知教育大学学生団体（SAGA）

～小・中学生へのSDGs教材の展示～

子どもたちにSDGs（持続可能な開発目標）を広めるための教材を展示しました。

■桜丘高等学校生物部

～朝倉川の生き物紹介とミナミヌマエビすくい～

豊川水系の朝倉川に生息する生き物の紹介と、ミナミヌマエビすくい体験を行いました。

■国土交通省中部地方整備局三河港湾事務所

～三河湾とシーブルー事業の紹介～

他の湾に比べて汚れやすい形状にあるといわれる三河湾の特徴を紹介し、きれいな水質を目指すシーブルー計画の発信を行いました。

■愛知県資源循環推進課

～あいちの海とごみの関係～

パネル展示やカードゲームをととして、海ごみの問題について紹介しました。



木のおもちゃ（弓矢）を楽しむ
名古屋 CLEAR'S（上段）と
子どもたち（下段）



東幡豆漁協石川組合長による
講演

3. 三河湾大感謝祭の開催風景



■三河湾大感謝祭を通じて感じた事

【会場の雰囲気】

- ・本会場は、家族連れが多かった。
- ・ものを加工し、持ち帰ることができるブースが多かった（およそ8～9割程度）。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底していた。
- ・展示ブースだけでなく、星越海岸での生き物観察会や、スナメリ号のクルージングなども開催していた。

【よかったと思うこと】

- ・動く木のおもちゃ（弓矢）の展示は、参加ブースの中では特に目立った。同様の企画はほかになく、子供が遊びに熱中するため、家族づれに好評だった。
- ・矢作川流域圏懇談会ブースは、端ブースの場所で、ブース以外の空間場所も使用でき、最高の位置どりであった。
- ・魚、貝等の生き物展示は3ブース程度あった。多くの家族連れを集客していた。
- ・流域圏クイズはまず回答を記入いただき、その後解答のチェックと補足説明を行った。これにより、流域圏について理解・興味をもっていただけた。
- ・流域圏クイズの参加者には、矢作川流域圏懇談会風呂敷、魚のペーパークラフトを景品とした。景品は客寄せに必要なものだと考えられる。
- ・矢作川流域圏懇談会の活動に興味を持っていただいた方が数名おり、10年誌をお見せしたところ好評だった。

【注意すべきこと・今後に向けた提案】

- ・流域圏クイズのレベルが高かった。
- ・ブースの大きさは、流域圏クイズ、パネル展示、木のおもちゃを展示するには、少し狭かった。
- ・今年は海風が強かった。風が強いことを想定して展示するもの、展示の仕方を考える必要がある。
- ・出店規模に応じて木のおもちゃ、流域圏クイズ、パネルの展示などの内容を絞り込むほうが良い。
- ・赤色立体地図パネルに情報を盛り込んだり、指さして話せたりすると、人が集まるし、防災情報等も説明しやすい。
- ・一昨年度の蒲郡でのイベントと比べ、飲食ブースがなかった。
- ・クイズの内容については、各部会であらかじめ話し合っておく必要がある。

～三河湾環境再生パートナーシップ・クラブとは？～

県民、NPO、企業、関係団体、教育機関、行政等が連携・協働して、多くの人々に三河湾に関心を持ってもらい、県民の里海である三河湾を再生し、次の世代に贈ることを目的としたクラブです。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

